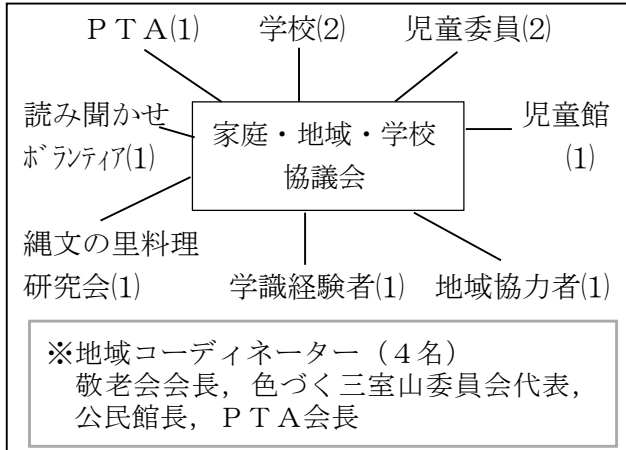


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ※開催回数 2回
- ※開催日程 令和元年5月22日（水）
令和2年2月26日（水）
- ※協議内容
 - ・本会の主旨について
 - ・活動方針と活動内容について
 - ・学校評価の結果と考察
 - ・地域と進める体験推進事業について
 - ・学校や地域での児童の様子について
 - ・情報交換

※今年度は、PTA代表と見守り隊代表者が同じであったため、読み聞かせボランティアから1名選考した。

(3) 協議会における成果と課題

地域と進める体験推進事業を中心とする「ふるさと学習」について意見やアドバイスを頂き、一緒に活動を考える良い機会になった。特に今年は、昨年度の三室遺跡と三室山に加えて三室川も活用する方法について話し合うことができた。また、地域や児童館での児童の活動の様子や良い面をたくさん聞くことができた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の自然や人との関わりのなかで、児童が地域の持つ課題を見つけたり、解決したりする体験活動を行うことで、ふるさと遅羽町に誇りや愛着を持ち、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。

(2) 活動の実際

① 原始運動会で地域を発信（6年生中心）

縄文時代の配石遺構が残る三室山をアピールするために、原始運動会を開催し、地域を盛り上げる活動。

- ・6年生が縄文遺跡等の資料室がある遅羽公民館を見学し、三室山の歴史について学んだ。学んだことをもとに原始運動会のテーマや運営方法を考えた。
- ・今年のテーマを「精いっぱい 笑顔いっぱい おそわっ子 原始人」とし、全校児童49名が4つの縦割り班に分かれて競技や踊りで競い、三室山をアピールした。
- ・6年生が地域の方々に、競技や「村まつり」（踊り）に参加してもらうために依頼文を作成し、遅羽公民館を通じて、遅羽町全戸に配布した。また、成器南幼稚園児を原始運動会に招待し、保幼小の連携も図った。



【地域のお年寄りと交流する児童】

(様式3)

- ・今年 は 30 回 の 記 念 大 会 と い う こ と で、 宣 伝 効 果 も あ り、 か つ て の 校 長 先 生 や 多 く の 地 域 の 方、 報 道 関 係 者 に 来 て い た だ い た。

②守ろう三室山！活かそう三室山！（4・5年生中心）

地域のシンボル三室山を含めた縄文の里の環境保全，振興策について考え，実践する活動。

- ・ホタルや赤とんぼがたくさんいる遅羽町にしたいという思いから，4，5年生が，遅羽町のホタルマップ作りに取り組んだ。
- ・4，5年生が，三室山整備に関わる方から，三室山への思いや植生について学び，三室山の麓を流れる三室川の水質調査を水生生物をもとに行い，「ややきれいな水」と判定した。



【三室川の水質調査】

- ・その他，全学年が三室山を散策し，三室山に生息する生きものや植生を調べた。また，3年生が外来種と在来種の生態を調べ，「遅羽町にススキを戻そう」と三室山付近のセイタカアワダチソウの駆除活動に取り組んだ。
- ・学習発表会で今年度の実践内容を遅羽町民に伝え，感謝集会で，今年度お世話になった方々にカレンダーを作って贈った。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

活動場所として公民館を会場として提供していただいたり，チラシや案内文書を配布するのに公民館の機能を活用していただいたりした。また，講師や業者の方，三室山史跡整備公園促進協議会の方々との連絡調整に尽力いただいたり，学校行事への地域住民の参加にも尽力いただいたりした。

(4) 特に工夫した事項

- ・教育的効果を引き出せるように，学校のカリキュラムに位置づけ，従来のものをバージョンアップする形で取り組んだこと。
- ・活動内容を地域コーディネーターや教員が作り込みすぎると，児童が受け身になってしまうので，児童の自己裁量の余地を残したこと。

(5) 成果と課題

地域についての意識調査で，児童の86%が「地域に誇れるものがある」と答えている。また，「今住んでいる地域が好きですか」の問いには，89%の児童が「好きです」と答えている。これらの結果から，自分たちの足で歩いて調べたり，自分たちの手で育てたり，つくったりしたこと，ふるさとの良さを見直し，その良さを発信していこうという姿勢を持てるようになったようである。

課題は，これらの活動が一過性のイベントとして終わってしまわないように，担い手の地域の大人や教職員間，児童間の継承を考えていく必要がある。そして，将来自分たちが地域を活性化する担い手であるという自覚を児童に育てていきたい。